

三 次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。

【原文】

さしたることなくて人のがり行くは、よからぬことなり。用ありて行きたりとも、そのことはてなば、とく帰るべし。(I)、いとむつかし。

人と向かひたれば、ことばおほく、身もくたびれ、心もしづかならず、よろづのことさはりて時をうつす、たがひのために益なし。いとはしげにいはむもわろし。心づきなきことにあらむをりは、なかなかそのよしをいひてむ。同じ心に向かはまほしく思はむ人の、つれづれにて、「今し^Bばし^Bけふは心しづかに。」などいはむは、このかぎりにはあらざるべし。阮籍が青き眼、たれにもあるべきことなり。^③そのことなきに人の来たりて、のどかに物語して帰りぬる、いとよし。また文も「久しく聞こえせねば」などばかりいひおこせたる、いとうれし。

※阮籍が青き眼……阮籍は中国晋時代の人。竹林の七賢のひとり。氣に入つた客が来ると青い目で迎え、氣に入らない客が来ると白い目で迎えたという。

【現代語訳】

たいした用事もないのに、人のところを訪問するのはよくないことだ。たとえ用事があつて行つたとしても、その用事がすんでしまつたら、すぐ帰るのがよい。() はほんとにいやなものである。

人と向かいあつてみると、ことば数も多く、からだも疲れ、心も落ち着きを失う。いろいろのことにさしかえが生じて時がたつてしまう。双方にとってなんの利益もない。そうかといって、いやそうな態度で応対するのもよくない。氣のすすまぬことがあるときには、() そのことをはつきり言つてしまおう。しかし、氣が合つて、いつまでも対座していたいと思うような人が、() 「もうちょっといいでしょう、今日はゆつくりして行つてください。」などと言つたようなときは、例外としていいだろう。阮籍が青い目で氣に入つた客を迎えたというが、これはだれにもあるはずのことである。

そのこともないのに人が来て、のんびりと話をして帰つていったのは、とてもよいものだ。また、手紙にしても、「ずいぶんごぶさたいたしましたので……」などということだけ書き送つてきたのは、ほんとうにうれしい。

問一、――線部A「おほく」、B「けふ」について、それぞれ現代仮名遣いに直し、ひらがなで答えなさい。

問二、空欄（I）に入れるのに最も適しているものを、次の中から選び、その記号を塗りつぶしなさい。

- ① いとはしげに言ふ ② とく帰る ③ 久しくゐたる ④ 人のがり行く ⑤ 用ある

問三、――線部A「なかなか」、イ「つれづれにて」の現代語訳として適当なものを、それぞれ次の中から一つ選び、その記号を塗りつぶしなさい。

ア「なかなか」

- ① もはや ② ようやく ③ もともと ④ かえって ⑤ いかにも

イ「つれづれにて」

- ① しみじみとおもむきを感じたというように ② （客を）ひきとめたい気持ちでいて
③ 気があまり進まない気持ちでいて ④ あきらめたような状態で
⑤ なにをすることもなく、手持ちぶさたで

問四、――線部①「いはむ」の主語は何ですか。主語にあたる部分を原文中から一五字で抜き出して答えなさい。

問五、——線部②「このかぎりにはあらざるべし」とはどのようなことを言いあらわしていますか。最も適当なものを次の中から一つ選び、その記号を塗りつぶしなさい。

- ① 用事が終わったら、なるべく早く帰ったほうがよいだろう。
- ② いろいろなことにさしかえも出てくるだろう。
- ③ 用事が終わったからといって、必ずしも早く帰らなくてもよいだろう。
- ④ 「今しばしけふは心しづかに。」などと言われたときは、早く帰るのがよいだろう。
- ⑤ いやいや話すのも意味がないことではないだろう。

問六、——線部③「そのこと」とは何を指すか。原文中から漢字一字で抜き出しなさい。

問七、この文章で筆者が言おうとしていることは次のうちどれか。最も適当なものを次の中から一つ選び、その記号を塗りつぶしなさい。

- ① 人を訪問するのは用事のあるときだけにするのがよい。用事がないときに行くと、相手が迷惑するし、時間がむだになる。
- ② 人を訪問して長く話していると、とかく疲れてむだな時間を費やすから、心静かに語り合うようにするのがよい。
- ③ 用事がなくても、気の合う相手ならいつ訪問してもよい。そんなときはかえってうれしいものである。
- ④ 用事があっても、それがすんだら早く帰るのがよい。しかし、気の合う相手であって、心静かに語り合いたいときや何となく来て話して帰るといふようなときは例外である。

問八、この文章は『徒然草』という随筆集の一部分である。この作品と同じジャンルの作品を次の中から一つ選び、その記号を塗りつぶしなさい。

① 万葉集

② 源氏物語

③ 今昔物語集

④ 枕草子